

注) この RCT は日本東洋医学会 EBM 委員会がその質を保証したものではありません

10. 呼吸器系の疾患 (インフルエンザ、鼻炎を含む)

文献

森壽生, 嶋崎譲, 倉田文秋, ほか. 春期アレルギー性鼻炎 (花粉症) に対する小青竜湯と越婢加朮湯の効果 -両剤の効果の比較検討-. *Therapeutic Research* 1997; 18: 3093-9. [MOL](#), [MOL-Lib](#)

1. 目的

春期アレルギー性鼻炎 (花粉症) に対する小青竜湯と越婢加朮湯の効果

2. 研究デザイン

準ランダム化比較試験 (quasi-RCT)

3. セッティング

医院 1 施設

4. 参加者

1997 年 1 月 27 日から 1997 年 4 月 5 日まで受診した初診の花粉症
虚証は除く 135 名

5. 介入

1992 年 11 月から 1993 年 3 月まで。受付順による群分け。

症状が強いときはインターナル点鼻、点眼を併用

Arm 1: JPS 小青竜湯エキス顆粒 7.5g x3 entry 68 名 解析可能例 45 名

Arm 2: JPS 越婢加朮湯エキス顆粒 7.5 g x3 entry 67 名 解析可能例 49 名

6. 主なアウトカム評価項目

くしゃみ、鼻汁、鼻閉

眼周囲搔痒感、流涙、眼脂、眼痛

7. 主な結果

症状別改善度は、鼻汁のみ Arm 1 が改善度が高く有意差があり、その他の症状は Arm 2 との間で有意差を認めなかった。

眼周囲搔痒感について Arm 1 は 55.6%、Arm 2 は 65.3% が改善以上で、流涙は Arm 1 は 13.3%、Arm 2 は 16.3% で Arm 2 がやや有効であるが、有意差はなかった。

全般的改善度 (鼻症状の重症度) は中等度改善以上は Arm 1 は 53.3%、Arm 2 で 67.3% であり最終改善度に有意差は認められなかった。

8. 結論

越婢加朮湯、小青竜湯ともに花粉症に対し、有意の差はなく、効果を示す。

9. 漢方的考察

小青竜湯は中間証から実証に用いられ、越婢加朮湯が実証に用いられるため、虚証は除外した。越婢加朮湯は石膏が含まれており眼周囲搔痒感、充血、皮膚の熱感等の熱を冷やすことを目的にしたものである。

10. 論文中の安全性評価

越婢加朮湯で 1 名、心窩部痛、吐き気。小青竜湯で 1 名発疹があった。

11. Abstractor のコメント

森氏の花粉症に対する論文は小青竜湯が中心になっている。「馬場駿吉, 高坂知節, 稲村直樹, ほか. 小青竜湯の通年性鼻アレルギーに対する効果 -二重盲検比較試験-. *耳鼻咽喉科臨床* 1995; 88: 389-405.」を参照する必要がある。

12. Abstractor and date

藤澤 道夫 2008.10.13, 2010.1.6, 2010.6.1